

有明の森から

- 北の里山の会・有明の森ニュースレター -

Vol.2-3

2001,09,16

お盆がすぎてそろそろ秋の気配がしてくるかなあと思いきや、けっこうな残暑ですね。夏休みはゆっくりできましたか？

8月の例会の報告です。8月25日も暑い日でした。さっきのニュースでは最高気温30と言っていました。札幌マラソンは猛暑に近い状態だったのですね(8月25日に書いています)。

炭焼きの材料を切りました。

今回は道づくりをということでご案内しましたが、急遽石山さんから申し入れがあり常盤小学校の授業で炭焼きをするための材料の切り出しをしました。ちょっと経緯をご説明しましょう。

常盤小学校には、父親の会というものがあります。地区委員会という名前が付いています。常盤小学校では今度5年生の授業の一環(?)で炭焼き体験をするという予定だそうです。炭焼き窯は林業指導事務所から移動炭窯を借りることにしたそうですが、さてその材料は?ということで思案していたということです。先生が地区委員会会長の石山さんに相談したところ、有明の森で切り出ししましょう、ということになって8月の例会のとき一緒にということになりました。

今回は参加者も多く、また石山さんが早くに来てチェーンソーで切っていたおかげもあって、作業すること約1時間ちょっと。無事約300本の

材料をそろえることができました。

これまでも間伐で結構木を切ってきましたが、利用方法までは考えていませんでした。このような形で、切った木を利用してもらえるというのは大変ありがたいことだと思います。今はまだ手鋸での作業ですから大量の間伐木が発生するということはありませんが、もしこれからチェーンソーを使うようになれば大量の材が発生します。そのとき利用をどうするかということも考えておかなければならないようです。



常盤小の先生3人も参加しました。初めてという方も...



環状歩道ができました

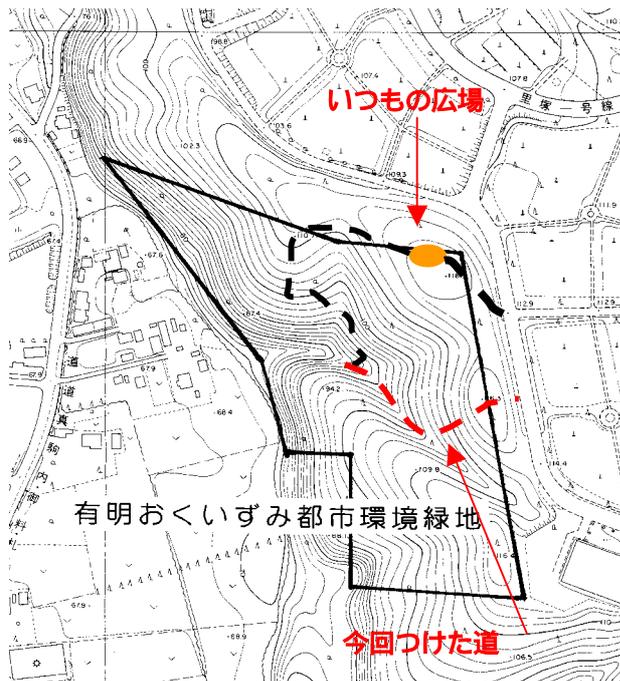
前回のニュースレターで報告した歩道を延長しました。あの地図は間違っていたようなので、今回の路線が正解です。

先々月の作業では、有明の森の斜面下部まで道を延ばしましたが、今回はその道から再び上方に向かい森の中を一周できるようにしました。

今回の歩道は、カラマツ林を抜けます。カラマツの林の中は、倒木も数多くあり場所によっては倒木を切り開きながらの作業でした。



ごちゃごちゃしていますが、みんなでササや幼稚樹を刈っているところです。



今月のお料理

今回は富永さんのヒットです。なにも打ち合わせなしで、バーベキューコンロを持ってきてくださいました。おかげさまで、焼き肉パーティーとあいなりました。最初は子どもたちの分だけかなぁ、なんて話でしたが、結局夢中になったのは大人の方です。



富永さん、責任を持って、火起こし。



予期せぬごちそうでした。富永さん、ありがとうございます

今月の参加者

今回は常盤小学校の先生3人がゲスト(?)、あとは大人13人、子供5人でした。前回とうって変わって盛況でした。

次回のお知らせ

次の定例会は9月23日です。連休の中日になりますが、どこにも行く予定のない人、定例会に焦点を絞った人、みなさんご参加ください。

今回は、少し本格的に間伐を考えてみたいと思います。これまで何となく間伐をしてきましたが、今度は「切らなければならない木はどんな木か」、「残すとしたらどの程度の本数を残すのか」というようなことを考えてみたいと思います。考えるだけじゃ具体的なイメージがつかめないので、実際に現地で印を付けながら間伐木を選定していきます。ですから、今回は立木調査(りゅうぼくちょうさと読みます)がメインになります。

次回のお楽しみ

もうキノコの季節です(この辺は9月16日に書いています)昨日蘭越に行った際にラクヨウを採ってきました。正確には人が採ったものをもってきたのですが...

ということで、有明の森でも期待できそうです。きのこ鍋にしましょう。きのこに詳しい相蘇さんに応援を頼むつもりです。

(今日9月16日、カッコウの会で相蘇さんにお会いしました。この件はお願い済みです。今日もカッコウの会で枝打ちの後キノコ鍋でした。舌鼓を打ってきたところです。)

=====

連載 あなたの守護樹は？

しばらくさぼったので、7月・8月の2ヶ月分です。

「木の癒し」: ギーゼラ・プロイシェフ,2000
(小川捷子訳,飛鳥新社)から

8月24日~9月2日

マツ

この時期に生まれた人は、用心深く、先見の明があり、用意周到で勤勉だといわれています。また自己を追求するだけでなく、他人に対して好奇心も強く、実務的な能力も極めてすぐれています。

9月3日~9月12日

ヤナギ

この時期に生まれた人は、知性・感情の両面にわたって、ちょうどヤナギの枝のように柔軟で、誰とでも一緒に食事ができると言われる。

また、気むずかしい人の気持ちも理解できるだけでなく、ヤナギの大切な友である水のようにみずみずしく、生き生きとしているといえます。

9月13日~9月22日

ボダイジュ

この時期に生まれた人は、こんなふうに思うそうです。「どうして私の考えや夢の方が現実より素敵なのだろう？」かれらは繊細で傷つきやすく、ともすれば通常の生活に適應することが難しいタイプかもしれませぬ。それでも、周囲の人たちに夢を与えてくれる存在です。

9月23日

オリーブ

この日は、昼と夜の長さが等しくなります。春に張り切って始めたことを、秋になって経験

をつみ、知恵をつけて完成するというわけです。
この時期に生まれた人は調和や正義、そして美
に対して心を砕き、驚くほど社会に尽くします。

9月24日～10月3日

ハシバミ

この時期に生まれた人たちは、9年目によ
やく実をつけるヘーゼルナッツのように、9と
いう数字に縁があります。

また、新しいこと、変わったことが好きで、
その際、すでに価値が定まっているものを見失
わないようにすることが大切です。

=====

次回に向けて、少し間伐理論もお勉強しなく
っちゃ、というところですが、私はよくわかり
ません。その道のプロ、道庁の両浜田さん、広
畑さん教えてください。

ときどき思い出したようにこのニュースレタ
ーを書いています。その時々現在の形で書いて
いますので、読む人にとってはわかりにくいか
もしれません。ごめんなさいね。

今月の本 ----本の紹介----

樹木学 -Tree:Their Natural History-

木のことにに関して様々な知識が詰め込まれて
いる本です。木に関して、なぜ?を調べるのに、
これまではずいぶんといろいろな本をひっくり
返してきましたが、これが一冊あれば...

訳者からひとこと

『この本を一読して身近な木々をもう一度眺め
てみると、けなげに生きている樹木の一本一本
が急にいとおしく思えてくる。それは単に枝葉
のついた「材木」ではない。あるいは抽象的な
「みどり」でもない。われわれと同様、この世
に生を享けて、懸命に生き、子孫を残し、死ん
でいく生命体なのだ。そのことを改めて認識さ
せられるのである。』 --熊崎 実

すでに専門とされる方には、原著論文の引用
がないなどの物足りない点がありますが、これ
から興味をもって木のことを知ろうとする方
にはもってこいの本です。専門の方でも復習のた
めにはよいかも...。私もまだパラパラとページ
をめくっただけですが...。ちょっとお高いのが
難です。

築地書館 刊,2001/07/30

著者 ピーター・トーマス

訳者 熊崎 実・浅川澄彦・須藤彰司

定価 3,600円+消費税

新シリーズを加えてみました。独断と偏見
で森や木に関する本を紹介していきます。

お問い合わせは、孫田まで

TEL 011-593-0713 FAX 011-593-0502

E-mail arcson@bc.wakwak.com

(文責：孫田敏)